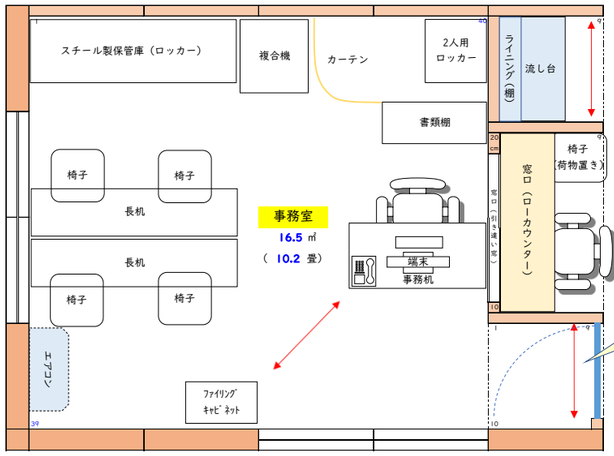
別添3

○ 地域会館の設計案（設備・備品あり。説明付き）

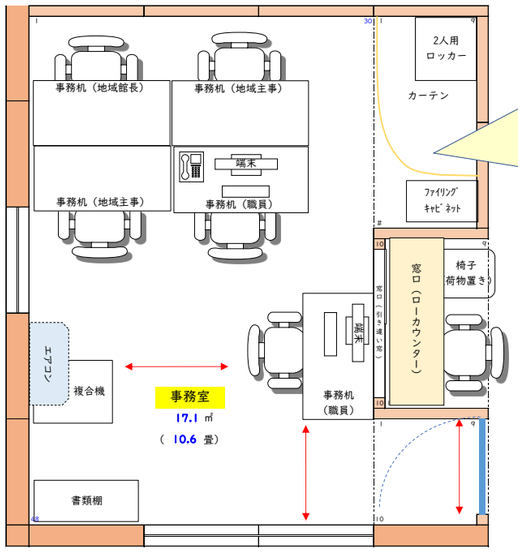
設計変更の例

【例1】Aタイプの活動・交流スペースを事務室に変更する場合



◆事務室◆
生涯活動センター内に再編（統合）後の公民館が設置され、地域会館は、地域事業の拠点としての地域活性化機能や貸館機能を主として担う状況を想定し、常駐職員1人による執務に対応した仕様。奥のスペースは打合せ用・作業用など多目的での使用が可能
小規模な施設のため専用のバックヤードはないが、目隠しカーテン付きのスペースあり。常駐は1人だが配置職員2人の交代勤務による場合も想定し、ロッカーは2人用
【例2】のケースを想定したレイアウトとすることも可能

【例2】Bタイプの活動・交流スペースを事務室に変更する場合



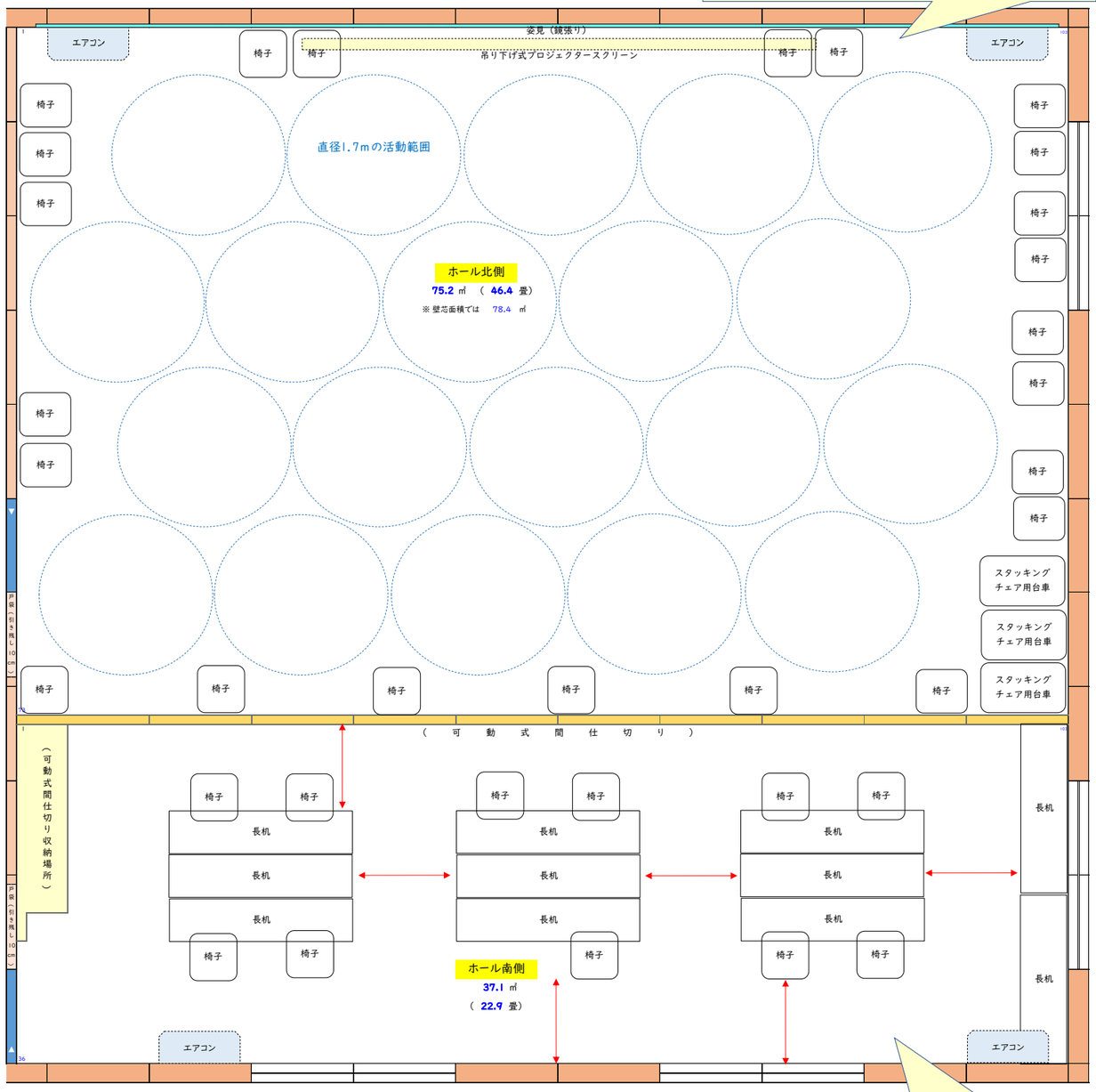
◆事務室◆
現在の標準的な地域公民館の事務室をおおむねそのまま受け入れる場合を想定したもの（公民館再編を進める場合、暫定的な在り方となる見込み）で、職員2人による執務に対応した仕様。ここでは地域館長と地域主事（計3人）の席も確保しているが、スペースの有効利用を優先して机を置かず作業スペース等を設けたり、共用の机を1つだけ置いたりすることなども選択肢
小規模な施設のため専用のバックヤードはないが、目隠しカーテン付きのスペースあり
【例1】のケースを想定したレイアウトとすることも可能



◆授乳・おむつ替えスペース◆
倉庫のスペースを削って設置

【例3】Bタイプのホールに可動式間仕切りを設けて分割利用ができるようにする場合

◆ホール北側◆
可動式間仕切りで分割したホールの広い方で、面積は元のホールの2/3程度。会議・研修等であれば30～40人程度、身体を動かす活動（エアロビ、フィットネス等）であれば20人程度までの利用を想定



◆ホール南側◆
可動式間仕切りで分割したホールの狭い方で、面積は元のホールの1/3程度。会議・研修等であれば十数人程度、身体を動かす活動であればごく少人数での利用を想定

【例4】Bタイプの倉庫の一部を授乳・おむつ替えスペースに変更する場合

※ ここに掲げた変更例以外にも、Aタイプのホールで姿見（鏡張り）を正面（北側）に配置するなど、様々なオプションが考えられます。